

人と人をつなぐ



みかわ地域だより18号

発行日：平成26年2月 発行元：三川地区公民館

町内最大のイベント!

親睦もちつき大会

平成25年12月22日(日)、恒例の“町内親睦もちつき”が開催されました。前日から町内の有志15人くらいで、うすやきね等の用具やもち米を洗ったり、あんこ(400個)を丸めたりして、翌日に備えました。当日はお天気に恵まれ、午前7時半からお湯を沸かしたり準備をして、8時頃から大人、子ども総勢約100人で代わる代わるもちをつき、婦人部隊が手際良くあんこもちを作り、まずは腹ごしらえ、来場者全員にきたてのあんこもちを食べてもらい、中には2個、3個と食べる者もいました。45キロのもちを、2うすでつき上げます。近隣の老人施設、地区公民館、みなと小学校からも応援に来て頂き、あっという間に出来上がり、パックにつめ、95世帯全部にもちを配りました。その後、参加者全員で手作りのおでん、つけもの、ラッキョ等美味しい料理を頂き、一年間の行事の思い出話に花が咲き、来年もまた、元気で参加したいねと約束して、みやげのお持ちを頂いて帰りました。

当初は、一人暮らしの方に子どもと一緒にきたてのもちを配っていましたが、その後、全世帯に配るようになり、参加できなかった方からも喜ばれています。子どもの数が減り、高齢者が多くなっている現在、地域のコミュニケーションの場として、このもちつきは町内最大イベントと定着化しています。町内を越えて子ども達も参加してくれ、もちつきをしたことのない子どもも、大人に教えてもらいます。最近ではすべてのお店に売っているの、昔からの家庭でもちをつく風習も変わりつつあります。将来、もちをついたことを子ども達が懐かしく思い出してもらえれば嬉しいです。今後も日本の伝統と文化を継承するもちつきを、町内の交流の場として続けていきたいと思っておりますので、皆様の御協力をお願いします。また、お世話になった皆様ありがとうございました。

(南船津町3丁目公民館 館長 小柳 哲)



子どもたちも一緒にもちをつきました☆



境内はたくさんの人でにぎわいました!

皆の願い 天までとどけ! 天領校区 どんど焼き

新年明けましておめでとうございます皆様にとって良い年であることを心よりお祈り申し上げます

さて、今年も天領校区では毎年恒例になりました「どんど焼き」を1月11日(土)晴天の下、開催いたしました。天領校区としての「どんど焼き」は先輩にお聞きしますと、1970年代より約40年に亘り地域の皆様に受け継がれてきた伝統行事であります。お正月の門松、お飾り、古くなったお札等を燃やし、その火の粉を浴びると1年間無病息災で暮らせると言い伝えられています。

本年も、まだ松の明けない1月4日(土)に、校長先生はじめ学校の先生方、PTA、そして実行委員の方々10数名で竹を切りに行き、竹を30本ほど切り取り運んできました。

「どんど焼き」当日は天気もよく、早朝より実行委員の皆様により近年にない高い(10m)立派な櫓を組み立てました。組み立てに必要な材料はみなと校区の皆様、そして地元の皆様に沢山持ってきて頂き、感謝申し上げます。



まずは骨組みをたてます。一番力のいる大仕事です。



よく燃えるものを中へ



周りを竹で囲んで、10mを超える大櫓の完成!

当日は地域の方をはじめ小学生、保育園児、老人施設等より約450名の参加をいただきました。セレモニーとして太鼓集団「響」の皆様による太鼓の演奏で今年の幸運を予期するがごとくいやが上にも盛り上がる幕開けとなりました。



太鼓集団「響」による華やかな幕開け

いよいよ小学生代表による点火、見事に燃え上がり天まで届く勢い、そしてボンボンと威勢よく燃える櫓に感動いただいたと思います。

会場では、PTAの皆様による食バザー、凧づくりと地域全体が一丸となって作り上げた伝統行事をお楽しみいただけましたか。

今後もみなさまと協力して継続していきたいとおもいます。

最後になりますが、学校、PTA、消防団そして地域の皆様本当にありがとうございました。

(天領校区どんど焼き実行委員会 会長 大滝 裕久)





昨秋、みなと校区運営協議会および三川地区公民館の共催で、「みなと校区近代化遺産見学会」を開催しました。10月16日(水)から11月28日(木)までの期間中5回に渡り、見学先は宮原坑跡、旧三池炭鉱専用鉄道敷、三川坑跡、三池港、旧長崎税関三池税関支署の5か所です。

今回の見学会は、みなと校区にお住まいの方に、大牟田市が現在世界遺産登録を目指している近代化産業遺産や関連施設等への理解を深めてもらい、当時の生活や歴史、文化などに触れてその時代を生きた先人たちに思いをはせ、地域住民の交流と親睦により魅力ある住みよいまちづくりにつなげればとの思いから企画いたしました。



全5回の見学会は、校区内の町内公民館単位に各回15~16名程度、延べ80名の方が参加しました。マイクロバスを利用した見学会は、いずれの回も天気に恵まれ、顔見知りの方が多くお互い気心が知れて和気あいあいの雰囲気でした。ガイド役は大牟田市世界遺産登録・文化財室の3名の職員が担当し、近代化産業遺産および関連事項への造詣が深く、専門知識に裏打ちされた話しとエピソードを織り交ぜた説明は大変わかりやすく、参加者の評判も上々でした。今回は、地元住民への特別の配慮から、普段は入れない三川坑跡が見学コースに入りました。構内に入ったのは初めてという人も多

く、あの炭塵爆発事故から半世紀が経ち参加者それぞれに感慨深いものがあったようです。身内や知人を亡くした人、当時を知る人たちの間では犠牲者の冥福を祈る姿があちこちで見受けられ、ある人は当時会社勤務の同僚10数名が急遽三川坑に配転となり11月9日の事故で数名を失った当事を思い出しておられました。第2回見学会(10/20)の宮原坑跡では、当日が定期公開日ということもあり、ボランティアの世話人からお茶の接待を受け、和やかな中で遺産にかかわるエピソードを伺い、いろいろと意見交換ができたのは好評でした。



見学会終了後の参加者からの感想として、

- ・「大牟田に生まれ育ったが知らないことばかりで、あらためて歴史の重みを感じた。多くの人たちの努力でいろいろなものがつくられてきたこと、遺産としてこれからも大切にすべきだ」
- ・「初めて訪れる場所が多く、まじかに見て詳しい説明を聞くことで大変勉強になった。こうして発展してきた大牟田に住んでいることは誇りだ」
- ・「今後の遺産登録にかかる資金のことが気になるが、後々に保存していくことがいかに大変なことか実感した」
- ・「見学者に向けての魅力あるルートづくり、食事処づくり、御土産・記念品的なものの販売等、何か工夫が必要だ」

等の声が寄せられました。なお、参加者から寄せられた質問事項に関しては、別途「近代化産業遺産Q&A(仮称)」を作成し関係先への配布を予定しています。(三川地区公民館 主事 菰原 絵理夫)



この“天領校区八十八カ所めぐり”の前身は、H22年度に行われた地域魅力アップ支援事業“旧諏訪・川尻校区あわせて100選!”です。この講座で、次世代に伝えたい地域自慢のお宝をリストアップしていただき、「天領校区のまち自慢88件」という資料ができあがりしました。そして、その資料をもとに、天領校区のまち自慢をさらに多くの地域住民へ伝えることを目的としたウォークラリー実施に向け、“天領校区八十八カ所めぐり”がH23年度に誕生し、さらにバージョンアップしてH24年度へと引き継がれました。実際に行われたウォークラリー「天領校区よかとこめぐり」では、H23年度は70名、H24年度は42名の方にご参加いただき、天領校区の魅力を伝えることができました。



そして現在、H25年度“天領校区八十八カ所めぐり パート3”を開催中です。今年度は、天領校区まちづくり協議会、校長先生はじめ天領小学校の先生方、地域のみなさまにご参加いただき、主に児童を中心とした「むかしのくらし体験」実施(2月15日)に向け、取り組んでいるところです。コークスや練炭、豆炭を燃料に火を起し、七輪や火鉢などを使って、めざしやすめ、もちを焼いたり、むかしの子どもたちがよく食べていた舟焼きを焼いたりして、数時間ではありますが、昔へタイムスリップします。便利な物があふれた現代生活に慣れている子どもたちが、この体験を通して、昔の人の知恵を学び、昔のくらしのよさを少しでも感じとってくれたらと願っています。この「むかしのくらし体験」の様子は、後日あらためて報告したいと思います。



今後、地域魅力アップ支援事業を継続し、地域のみなさまのネットワークづくりや、魅力ある住みよい地域づくりにご協力させていただきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。(三川地区公民館 主事 湯汲 智香)

天領校区暮らしの安心・安全出前講座のご案内

“自分はだまされない”と意思を持っていても、いろんな手口を使ってあなたに忍び寄る悪徳商法。その被害にあわないために、未然に防ぐ方法や対処方法を学びませんか?

- 日時：平成26年3月13日(木) 10:30~正午
- 場所：天領小学校 地域連携室
- 対象・定員：天領校区住民・30名
- 参加費：無料
- 応募方法：電話・メール及び来館受付
- 応募締切：3月7日(金)
- 問合せ先：三川地区公民館 ☎ 52-5957
- ✉ mikawa01@city.omuta.lg.jp

